

広報部長を拝命しました18区の小笠原です。これまでの編集実務の経験を生かし、広報誌制作のお役に立ちたく思います。何よりも重要なのは、読者であるあさひが丘団地のみなさまに「読んでもらえる広報誌」であることです。

そのために今号において、皆様の目を引く誌面作りを心掛けました。

文字を大きくして読みやすくしたのもそうですし、これまでの2色刷りの赤色を緑にしたのも、そして創刊60号を記念して誌上座談会を企画したのもすべて、読者のみなさまに「何か変わったな！」と感じていただきたかったからでした。

座談会のテープ起こしには予想以上の手間が掛かり慌てましたが、広報スタッフ4名が一致団結して乗り切りました。記念すべき60号はいかがでしたでしょうか？

編集に携わった私たち広報の努力が報われたなら、これ以上の喜びはありません。

特別企画
誌上座談会

あつたが、連日市会での動議があつたが丘は朝刊10号を題したことを記述して、市上座談会を企画しました。歴代の連日自治会長の名義で進まん（口頭発表）きんをむねとす。尾田豊機機長をもて、第二部があつた丘団地の採果履歴と「第」那広報誌あひが丘の朝刊誌について語っていたとある。

第二部「あさひが丘団地の将来展望」

「広瀬君、今日は月忙しし中をお集まりいただきありがとうございます。」
「まず、第一部の『あさひが丘団地の将来展望』についてですが、『少子高齢化』が大きな社会問題となっていますね。私たちの住む『あさひが丘』も例外ではないと思われませんが、この問題についてどうお考えですか？」

でももうということになった。子
わたしのふろさとを作るためです。運
動会、献酬り、祭りがあるですが、今は
高齢化対策が深刻な問題になりました。

（金時さん）団地における安心、安全、特に環境問題の対応をやっておかねといけませんね。少子化の中で子ども

世代交替がキーポイント

「近藤さん、そうですね。40年前に20歳から35歳の若さで入居した人たちは、40年経つと貧血、高齢者なんですけれど、健康で楽しく暮らせる高齢者対策をきちんとしなければなりません」

あひがは江の団地が竣工当初、着地区の若もしい行事をめさひが江

あさひが丘には、師範以上の高層者が2000人近くおられる。空き家対策なども見据えて、みんなを知恵を出してついでよい団地をしていきたいです。



尾田さん 団地が完成してすぐに入居が始まり、5年以内にほとんどが終了しました。40年後、45年後の少子高齢化は当初から予想されたことでした。

6年前のアンケート調査では「建て住宅に住み続ける人がいない」という回答が54%ありました。いかに若い世代に建ててもらったかが大事ですね。

「広報担当、現実問題として、そうしただけで済ませたい。不安を多く抱いておられます。それをもっと乗り越えたいとお考えですか？」

（金持さん）2012年に中国新聞の団地取材班を呼んで、社会弱者とか老若々談とか「コミュニティの衰退」といった問題を検討しました。これから先、「コミュニティがなくならないように」しっかりとしなければなりません。

手もたけでなく、大人の見守りも大事です。郵便配達や新聞配達の人が、郵便受けに新聞などが溜まっている



元連合自治会長の近藤義明さん

のを獲得したら関係先へ連絡をい
まから先はそういうことをやってい
かなければなりません

昭和48年	1973年
昭和50年	1975年
昭和51年	1976年
昭和52年	1977年
昭和60年	1985年
昭和63年	1988年
平成4年	1992年
平成14年	2003年
平成15年	2004年
平成16年	2005年
平成30年	2018年

昭和48年	1973年
昭和50年	1975年
昭和51年	1976年
昭和52年	1977年
昭和59年	1984年
昭和60年	1985年
平成4年	1992年
平成14年	2002年
平成15年	2003年
平成16年	2004年
平成30年	2018年

「近頃どう」
「向こう三軒両隣」といふ
言葉があるが、朝方べつ夕方に
オムレツしたり、夜を明けたりして
今日と元気ですよ」といふ露城表
をきくことが大切ですね。

まに行政にお願いしたい。一例を挙げると、防水型の脱脂機のような装置を身につけて、心臓の活動の变化や、身体の動きの長時間停止等があった場合、管理担当部門や、担当管理者へ自動的に知らせるシステムの開発をお願いしたいと思います。

尾田の人は、配流時に郵便物や新聞が溜まっていたら連合自治会に通報してもらって「原封書」を郵便局そして新聞販売所と結んでいきます併せて、参加しやすい行事を考えて、参加者同士の絆をますます作りをしなければなりません。

そうした取り組みが地震や土砂災害の時に生きて来ると想います。

「広報担当」として「あさひが丘」が団地として誕生した当時の様子について、教えていただきますか。

都市機能併せ持つ 「農住団地」

（金持さん）私はこの団地へ昭和54年に入居しましたが、第1号の入居者があつたのが昭和50年の12月です。コープセンターでは翌年6月に、初めての入居者の集いが開催され、自治会作りが協議されたそうです。2カ月後の8月には第1回あさひが丘納涼大会があつたと聞いています。

（尾田さん）自然との調和のとれた都市づくり「農村住宅団地建設基本計画」に基づいて安佐町農協が着手し、農住都市コープタウン「あさひが丘」が誕生しました。

（近藤さん）私は99番目に入居しましたが、「あさひが丘」の団地は敷地が広く、石垣もきれいで、それに動物園もあつて子どもたちが喜んでいましたね。

（尾田さん）恵まれた自然環境と、都市機能を併せ持つ新しい生活空間「農住団地あさひが丘」が完成したわけです。

（広報担当）「あさひが丘」ができた当時は、希望に満ちた画期的な団地として注目を浴びたというわけですね。

（尾田さん）「あさひが丘」は、昭和48年12月に起工式が行われ、昭和51年



現連合自治会長の尾田豊機さん

11月に竣工式が盛大に行われたと聞いています。

日浦小学校は開校後、新学期を迎えるたびにクラスが増えるという活気に満ちた団地でした。

ピークは昭和60年で、小学校の生徒数が1398人、中学生は3年後の63年に759人、合わせて2000人を超え、当時は広島市内で1位か2位の大規模校でした。

（金持さん）当時は子どもが大勢いて夢がありましたね。

（尾田さん）団地の人口のピークが平成4年の8898人。その後、平成16年までは8千人台を維持していました。

（広報担当）ちなみに、「あさひが丘」の名前の由来はどうでしょう。

（近藤さん）当時は旧安佐郡日浦村でしたが、安佐郡の「あさ」と日浦村の「ひ」から、朝日が昇る住宅団地「コープタウンあさひが丘」と命名されたという聞いています。

（尾田さん）6区の見晴らし台から見ると朝日はとてもきれいです！

（広報担当）希望に満ちていた「あさひが丘」が、少子高齢化の荒波に直面しています。

深刻な「空き家問題」

（尾田さん）日浦小学校は、1学年2クラスだったのが近々1クラスになる危機に直面しています。今年入学したのはギリギリ2クラス。そこまで迫り詰められています。一方で独り暮らしの高齢者が激増しました。

（広報担当）連合自治会がまとめた「年別人口一覧表」を見ますと、平成30年12月末現在の全人口が6558人、そのうち65歳以上が2824人で高齢化率43%という驚くべき数値が示されております。

（尾田さん）高齢化率については広島市全体で25%、安佐北区が32%、これに比べて「あさひが丘」は43%です。4年前と比較すると全人口が400人減り、65歳以上の高齢者が増えました。4年前の高齢化率は確か36%でした。

（尾田さん）団地の世代が65歳を超えたので、これからの高齢化率はゆるやかな上り坂になると思われます。

（広報担当）子どもが減る一方で、高齢者の割合がどんどん増えています。子どもも若者の減少を食い止め、逆に増やすというのは理想論でしょうか？

（尾田さん）「あさひが丘」では、家をリフォームする若い子育て世代の入居が増えていきます。問題なのは「人は住んでいないが家財が残る空き家」が非常に多いこと。これが解決すれば、代替わりができます。

連合自治会では、このような「家財が残る空き家」をなくすために、まち起こし推進部の事業として「空き家対策」に取り組んでいます。こんな空き家が「あさひが丘」に100軒はあります。

（金持さん）将来子どもが帰るのか、帰らないのか、親が元気なうちに子どもと話ししておくことが大事ですね。生前に子どもに言うっておけば、子どもが処分しやすいんです。こうすれば団地の空き家が少なくなる。

もうひとつは、空き家をリフォームする人がどの程度いるのか。「あさひが丘」で空き家になりそうなのは昭和50年代に建てた家です。団地内の8割がそうです。2階は2間でトイレがありませんが、今の若いファミリーにはそんな間取りは魅力がない。古い家を購入してお金を掛けてリフォームするよりも、家を壊して更地にするほうが多いのです。更地にすれば若い世代が入って来る。統計的に5年ぐらい前から見ても増えています。これからは独りで暮らす高齢者と子どもがしっかりと相談することが大事ですね。

〔広報担当〕「住宅団地の活性化に関する意識調査」が以前行われましたね。いろんな項目について住民のみなさんから多くの意見が寄せられたと思います。「あさひが丘」が抱える問題点、どのようにあぶり出されたのでしょうか？

高齢者の移動手段が課題

〔尾田さん〕6年前にアンケートをしたとき、「将来の不安は？」という質問に、車の運転ができなくなったときの移動が挙げられました。運転免許の返納は、現在大きな社会問題ですね。それから、自分と家族の健康状態、路線バスの縮小・廃止について、今年4月からウィークデーのバスが減便されましたね。商業施設の撤退もありました。これらが一番大きな不安材料です。

第二部 広報誌「あさひが丘」創刊秘話

〔近藤さん〕住民のみなさんに、「あさひが丘」の中のいろんな行事、特に自治会がやっている行事を良く知る必要がありましたね。みなさんに知ってもらおうと同時に、やっぱり記録に残そうと、私が副会長の時、第一号を出したんです。

〔金持さん〕それより前は、どうでしたか？

〔近藤さん〕ホームページものの印刷物を

加えて、現在、住宅に住む高齢者がいない家庭が54%もある。アンケートをした6年前の不安が現実のものとなりました。

高齢者の移動手段を考えなければなりません。今、免許返納者へのフリーパス発行の交渉を、広電バスとしていくところです。

〔広報担当〕持ったなしの厳しい状況に直面していることが分かりました。みなさん何かつたお話しによって、希望に満ちた将来展望に繋がることを期待したいと思います。

これまでのお話しの流れのなかで、連合自治会の広報誌「あさひが丘」が創刊されることになりました。ここからは「第二部 広報誌「あさひが丘」の創刊秘話」を語っていただきたいのですが、創刊当時の苦労談をこぼしたいだけですか？

配っていました。今年度は「ういうこと」がありました。か。「あさひが丘」に子供たちのふるさとを作ろう」という声が出ましたね。運動会とか祭りやら、総踊り大会の三大事業が始まったわけですね。広報誌も、きちっとした記録を残すようなものにしようじゃないかと。

〔広報担当〕なるほど、そういういきさつがあって、広報誌「あさひが丘」がで

きたのですかね。さて今回60号を迎えます。これまでの号で思い出に残る記事はありますか？

〔金持さん〕平成14年度を振り返って「という第2号を発行しました。私は当時、連合自治会の会長でしたが、平成15年の4月に、「あさひが丘」の汚水処理場を広島市へ移管しました。その時のことについては、第2号で述べております。

また、安佐町農協が広島市農協と合併した際に、安佐町農協が所有していた自治会館やゴミ置き場等、それに法面があさひが丘団地管理組合へ無償譲渡されました。

これらのことが、今では「第一印象に残っております」。

〔広報担当〕最後に、広報誌「あさひが丘」は、これからどんな「使命」を背負って行くと思われませんか。これからの広報誌に期待するもの」という点でいかがでしょうか？

広報誌を通じて情報共有

〔尾田さん〕「あさひが丘」団地の情報、それから問題点、そういうものを、広報誌を通じて住民同士が共有し、それがコミュニティ活動に繋がればいい、というのが私の願いですね。

〔金持さん〕私も同感です。あさひが丘」の情報を広報誌を媒介にして共有したく、それが一番じゃないでしょうか。

〔近藤さん〕広報誌に若い住民の声を載せて、そうした若い人の意見をみなさんに理解してもらおう、ということが大切ですね。それから歴史として、この団地に起こったことを記録しておく、これが広報誌の役目だと思います。

〔広報担当〕私たち広報部員も、創刊当時の熱意を常に念頭に置き、「あさひが丘」の更なる発展に貢献する広報誌作りに励みたいと思います。

今日はお忙しいところ、大変貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。



元連合自治会長の金持忠彦さん



今年度の抱負を語る

広報誌「あさひが丘」の創刊60号を記念して、尾田連合自治会長と部長のみなさまに「今年度の抱負」を語っていただきました。

安心・安全な暮らし目指して

連合自治会長 尾田 豊機

あさひが丘連合自治会員の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素はあさひが丘連合自治会の行事や活動にご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

今年度のあさひが丘連合自治会行事は、クリーンキャンペーンを2回(6月11日、納涼大会8月、大運動会10月、秋祭り10月、音楽祭12月)などを予定しています。

あさひが丘団地内のニュース、情報問題点などを掲載する「広報誌あさひが丘」は、平成元年に第1号を発刊して以来、節目の第60号となり、記念号をお届けすることになりました。これもひとえに団地住民の皆様のご協力と歴代自治会関係者のご尽力のたまものと感謝申し上げます。

6年前、団地活性化のアンケート調査を行いました。車が運転できなくなった時の移動、同居家族の減少、路線バスの減便、少子高齢化など問題が山積みしています。

このアンケートの中の「あなたの住

宅に住み継ぐ方がおられますか」という設問に対し、54%の方が「住み継ぐ人がいない」と回答されました。現在あさひが丘団地には、家財があるままでも人の住んでいない空き家が増えています。

将来このような空き家を増やさないために、あさひが丘連合自治会では広島市の支援を受けて、昨年度から空き家対策に取り組んでおります。

まちづくりの専門家を招いて、子どもや孫に迷惑をかけないため、空き家になる前に、空き家になった時の家財整理の仕方、考え方などを学ぶ講習会や相談会を開催しました。

将来この「住み継ぐ人がいない」という半数以上の住宅に、子育て世代のファミリーを呼び込むためにも、元気な時に何をすべきかなど問題点を共有し、今年度も専門家を招いて空き家対策に取り組んでまいります。

昨年7月の西日本豪雨では、土砂災害などの甚大な被害が発生し、広島県内では100人以上の方がお亡くなりになりました。この災害では避難の遅れが指摘されています。

各区の自治会では、実際にまち歩き

をして、危険な場所、一時避難場所緊急指定避難場所などを記載した防災マップが完成しました。一部の区を除いて各戸に配布させていただきました。ご家庭内で緊急持ち出し品を揃え、避難場所への安全ルートを話し合い、日頃から緊急時の備えをして早目の避難に努めましょう。避難できない方が家の近くにおられる場合は手助けに努めましょう。

10月27日には、防災マップを活用した各区独自の防災訓練を予定しています。

団地内の皆様が安心・安全な暮らしのできるまちづくり、子育て世代の方々に移り住んでいただけるまちづくりに取り組んでまいります。

納涼大会を親睦の場に

事業部長 山縣 裕二

この度、事業部長の大役をゆづかりましたが、皆様方のお力を拝借しなければ、8月の納涼大会や10月の秋祭りなどやり遂げることができないと思っております。

今年の納涼大会は、8月3日の土曜日に予定しておりますが、その前準備として7月の後半に納涼踊りの練習を行う予定です。多数のご参加をお待ちしております。

昨年の納涼大会は、多くの子どもたちが浴衣を着て参加され、大変賑わい

ました。今年も多くの方に参加いただき、住民の皆様方の交流と親睦の場となるよう、また子どもたちの思い出のひとつに残るよう、準備を進めて参ります。

沢山の方々のご来場とご参加を心よりお待ちしております。

自治会長を引き受けて

生活環境部長 西田 剛子

平成の始まりが私のあさひが丘団地での生活の始まりでした。この間3人の娘が幼稚園、小学校、中学校へ通い地城の中で育てていただきました。恩返しのため、PTAや学区子ども会などの役員に携わらせていただき、子どもが卒業して10年が経とうとしています。

この度、自治会の会長をお受けし、連合自治会の生活環境部長の任をいただきました。各区の会長様が子どもと同級生の保護者の方だったり、共に役員をした方だったり、懐かしさを覚えると同時に、地域の方々のお世話をさせていただく年代になったのだとつくづく思いました。

ふだん何気ないゴミ捨て、月1回の公園の掃除についても、役員になられた方が陰で動いておられるのだと分かりました。

クリーンキャンペーンにおきましても生活環境部担当の皆様、連合自治

会の役員の皆様は大変お世話になりました。

当日所用で欠席しましたが、沢山の方が参加してくださったと伺いました。ありがとうございます。

何事も始まったばかりで分からないことが多く、皆様にはご迷惑をおかけすることになると思いますが、この1年どうぞよろしくお願いいたします。

多世代循環型まちづくり

まち起し推進部長 佐々木 薫

まち起し推進部は「あらゆる世代がくらしの豊かさを実感し支え合い、安心していつまでも住み続けたい」となる多世代循環型のまちづくりを目指して活動しています。

空き家問題の解決に向けての取り組みは、安佐北区役所とも連携して進めていきます。

バスの利用促進については、今年度からバスが減便になるなど、すでに利用者の減少による影響が出ています。関係団体と連携して、バス利用促進の取り組みを一層進めることの必要性を感じています。

取り組みの大きな柱の「まち起しボランティア人材バンク」について、昨年度はホームページのリニューアルオープン、音楽祭の開催、お助け隊の発足、ひうら山歩き会や後山協和会の有志と連携して荒谷林道を

ウォーキングコースとして整備する活動や、野登呂山登山道整備等の取り組み、法面の草刈りの支援などを進めることができました。

今年度も引き続き「まち起しボランティア人材バンク」に登録していただく方を募集しています。

応募用紙は連合自治会事務局か、あさひが丘連合自治会のホームページ「まち起し推進部」の部屋から入手できます。

運動会を盛り上げよう

体育部長 中村 義博

あさひが丘へ移り住んで30数年、当時は随分盛んな運動会をされていて感心したものでした。わが自治会は戸数も少なくここ数年は参加しておりませんが、多くの方々の期待はいかばかりかと思っています。

さてこのたび体育部長を引き受けることとなりました。年々、高齢化が進む中で少しでも運動会を盛り上げようと、先輩の方々が創意工夫をしてこられたことに少しでも近づけるよう、役員や周りの方々の協力を得ながら努めていきたいと思っています。

いまや「伝統の運動会」になりそうな気配ですが、多くの方々の参加なしでは成り立ちません。

こぞつて盛り上げてくださるようお願いいたします。

連合自治会事務局からのお知らせ 学区集会所その他各施設のご利用について

連合自治会事務局で利用申し込みの受け付けを行っているのは次の4施設です。

- 1 近隣公園（宮内閣利用）
- 2 日清学区集会所
- 3 あさひが丘自治会館
- 4 JACコープビル3階大ホール

申し込みの受け付けは、月・火・木・金曜日の午前10時から12時までです。
午後からの申し込みや、電話での予約は原則としてできません。ご協力をお願いします。

近隣公園以外の施設は有料ですが、集会所には高齢者の利用に限り無料の部屋があります。申し込みの受け付け時に「面談許可証」を提示しますので、許可証を提示の上、簡易の鍵を貸付してください。許可証の提示のない場合は鍵の貸し出しができませんのでご注意ください。

なお、近隣公園と地区内の行事が会場は、「使用許可証」を発行していても使用できないことがあります。あらかじめご了承ください。

目を引く誌面作り

広報部長 小笠原 優

広報部長を拝命しました18区の小笠原です。これまでの編集業務の経験を生かし、広報誌制作のお役に立ちたいと思います。

何よりも重要なのは、読者であるあさひが丘団地のみならず「読んでもらえる広報誌」であることです。そのためにも今号において、みなさまの目を引く誌面作りを心掛けました。

文字を大きくして読みやすくしたのもそうだし、これまでの2色刷りの赤色を緑にしたのも、そして創刊60号を記念して誌上座談会を企画した

のもすべて、読者のみなさまに「何か変わったな」と感じていただきたく思ったからです。

座談会のテーブル起しには予想以上の手間が掛かり慌てましたが、広報スタッフ4名が一致団結して乗り切りました。

記念すべき60号はいかがでしたでしょうか？

編集に携わった私たち広報の努力が報われたなら、これ以上の喜びはありません。

広報誌発行

あさひが丘連合自治会 広報部

部長 小笠原 優
電話 83812568

連合自治会事務局